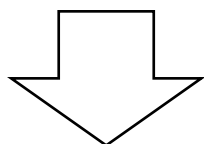


令和4年度西紫原中学校グループ

共通実践事項 実践報告集

◎学習指導分科会テーマ

「思考力・判断力・表現力を育てるための学習指導の在り方」



○共通実践事項

「根拠を明らかにして、自分なりの考えを発表したり活動したりする学習に取り組む」

☆西紫原小学校での実践について P 1～P 5

☆向陽小学校での実践について P 6～P 11

☆西紫原中学校での実践について P 12～P 16

◎職員研修 小・中連携共通実践事項の取組の報告

学校名(西紫原小)学校 教科(国語)科

学習指導分科会

記入者(諸平幸奈)

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして、自分なりの考えを発表したり、活動したりする学習に取り組む」

共通実践事項に基づき、2学期に各校の各教科の授業で実践した内容や成果・課題をご記入ください。各校の取組内容や成果を共有し、今後の学習指導に生かしていただけたらと思います。

单元名:作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう【読む】

教材名:やまなし/イーハートブの夢

ねらい:「やまなし」の表現や構成、題名に着目して読んだり、「イーハートブの夢」を読み、作者の生き方や考え方をとらえたりすることを通して、作者が作品に込めた思いを自分なりに考え文章にまとめることができる。

主な活動:① 「やまなし」を全文読み、感想を伝え合い学習問題と計画を考える。

② 「イーハートブの夢」を読み、作者の生き方や考え方を考える。

③ 「やまなし」の表現に着目し、どのような情景を表しているかを考える。

④ 「やまなし」の5月と12月を比べて読み、違いを考える。

⑤ 作者が「やまなし」に込めた思いを考える。

⑥ 作者になりきり、「やまなし」のあとがきを書く。

○ 单元終末の活動を子供たちと一緒に考え、その活動を達成するための学習内容を設定することで、学習したことを根拠にしなが、自分なりの考えをもって表現する姿が見られた。

单元名:目的や条件に応じて、計画的に話し合おう【話す・聞く】

教材名:みんなで楽しく過ごすために

ねらい:言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに着目し、互いの立場や意図を明確にしなが話し合うことを通して、考えを広げたり深めたりすることができる。

主な活動:① 学校や地域に関わることで、自分たちが主催する活動で何ができるか考え、議題を決める。

② 主張、理由、根拠を明確にしなが自分の考えをもつ。

③ 進行計画に沿ってグループで話し合う。(目的や条件に沿って)

④ グループで決まったことを試してみ、課題について再度話し合う。

(学活) ⑤ グループの考えを出し合い、学級全体で考えをまとめる。

(学活) ⑥ 1年生との交流会を実際に行う。

○ 自分たちで議題を吟味し、「話し合いたい」という思いを高め、話し合うためには自分の考えをもつことが大切であると気づき、積極的に考えを出し合い、広げる話し合い、まとめる話し合いを行うことができた。また、学活へつなげて実際に活動を実行することができた。

△ 話し合う際、自分で準備している考えであれば伝えることができるが、話の流れで新たに考えを出すことが難しい様子であった。自分の考えをもって表現する活動を継続的に行う必要を感じた。

☆西紫原小、向陽小、西紫原中で実践した内容を共有しますので、取り組んだ内容を具体的にわかりやすくご記入ください。

☆国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語科の各教科ごとに、実践した内容や成果・課題をご記入ください。

☆お忙しい中申し訳ありませんが、12月28日(水)までに、各校の教頭先生から西紫原中学校教頭へ See-Smile 学校間連絡事項でご提出ください。よろしくお願いたします。

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして自分なりの考えを発表したり活動したりする学習に取り組む」

【戦国の世から天下統一へ】

1 小単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

〈実際 5/6〉

【本時のめあて】

豊臣秀吉は、天下統一をするために、どのようなことを行ったのでしょうか。そして、そのことは社会にどのような影響を与えたのでしょうか

① めあてを確認する

- 天下統一に向けた秀吉の政治の意義を探究させる手立てとして秀吉の政策を調べていく。
- 秀吉の政策は社会にどのような影響を与えたのか、信長の時代と関連させながら探究する。

② 調べる

- 信長に仕え武将に
- 明智光秀を倒した
- 朝廷から閑白に命じられた
- 仏教勢力をおさえた
- 大阪城を築く ○ 検地 ○ 刀狩令
- 武士の世のしくみ ○ 大陸の影響

③ グループで話し合う

調べた政策とその内容の確認
政策の意義と社会への影響について考えたことの発表

• これまでのノートや、写真資料、年表、資料集、タブレット等を活用させる。

• 自分の考えの根拠となる事象や政策を明確にしなが発表させる。
• 友達の考えの感想を表記させる。

④ 全体でまとめ、話し合う。

◎ 豊臣秀吉は全国の有力な大名を倒して大阪城を築き、検地と刀狩によって武士と百姓・町人の身分を区別し、武士が世の中を支配する仕組みをつくって統一をした。

※ 「秀吉の政治の意義」「社会への影響」については、グループで深く対話できる時間を確保し、積極的な議論の末、深い学びに向かえるように包括を図る。

「天下統一へ向けての働きがより大きかったのは信長か秀吉か」 〈実際 6/6〉

【本時のめあて】

天下統一を進めた二人の武将の働きについて、学習したことをもとに話し合おう。

① めあてを確認する

• 司会者をおいたパネルディスカッションであることを理解し、流れをイメージさせる。

② 立場を明確にし、意見をまとめる

• これまでの学習を振り返り、自分の意見を根拠をもとにまとめ、さらに、予想される反論への対応も論拠をもとに考える。

③ 代表パネラーの意見・質問を聞く

• メモを取りながら、積極的に聞き、自分の考えと比較する。根拠となる部分の見方・考え方に重点が置かれるように助言する。

④ パネラーへの意見や質問をする。

• 自分と異なる見方・考え方の良さを入れながら発表し、さらに、自らの意見を、根拠とする政策を明確にしなが発表できるように支援する。

(教師側)

⑤ まとめる

※ 子ども達の自分の意見へのこだわりやより良い変化を賞賛し、戦国時代を整えていった二人の武将の偉大さを確認する。

学習指導分科会

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして自分なりの考えを発表したり活動したりする学習に取り組む」

〈単元目標〉

- 比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすることができる。【C(2)比 ア知識及び技能(A)】
- 日常の事象における数量の關係に着目し、図や式などを用いて数量の關係の比へ方を考察し、それを日常生活に生かすことができる。【C(2)比 イ思考力, 判断力, 表現(A)】
- 2つの数量の割合を簡単に表せる比のよさに気付き、様々な場面でそれを用いようとする。【学びに向かう力, 人間性等】

単元の指導計画(全10時)

過程(時)	主な学習活動	学びたいを育むための留意点と手立て	形成計画
1	○ 分量についてこれまで学習した割合を用いて表す。	★既習事項の実態を把握し、個別指導等により、レディネスを揃える。 ★基本的な割合や百分率等について起思させ、それらが、日常生活の中に活用されている事に気付かせる。	【既習事項の起思】 ↓
2	○ 比の表し方を理解し、比を用いる。 ○ 比の値について理解する。	★6年生で学ぶ、新たな割合の表現に魅力を持たせ、難しい事ではなく、分数や割合と類似していることを理解させる。	【新たな習得】 ↓
3	○ 等しい比について理解する。	★割り算のきまり、分数の性質等と類似していることを強調し、わかりやすい法則の中で変化することを助言する。	↓ ポストテスト等の活用
4	○ 等しい2つの比の間に成り立つ性質を見つける。	★文章問題から=で繋がれた2つの立式が書け、その便利さに気付かせる。	↓
5	○ 等しい比の性質を活用する。	★倍での考え方も踏まえながら、等しい比の性質を活用し問題を解決するスマート感を感じさせる。	習得した力を活用し問題と向き合う
6	○ 等しい比の性質をもとにして、比を簡単にする。 ○ 「比」遊びをしよう。	★小数を整数にしたり、異分母を通分したりしながら、等しい比の性質の便利さを実感させる。	↓
7	○ 比が等しいことを調べ、等しい比の性質を活用する。	★比が等しいことがわかると、いろいろな物の長さや量を計算できることを実感させる。(測量)	↓ 活用を思考し対話を重視した授業デザイン
8	【本時】 ○ 比例配分の意味と計算のしかたを理解する。	★文章問題を図で表し、等しい比を探し出すことができるように支援する。 ★友達と相談しながら解決できる楽しさを味わわせる。	・ロイロ ・パネル
9	○ 既習事項の確かめをする。 ○ 既習事項の理解を深める。	★わかった、できたの成就感を感じさせながらまとめの問題に取り組ませる。	↓
10	○ 比を用いて、身の回りの事象について考え、理解を深める。	★自ら問題を見つけ出したり、理解が不十分な友達に教えたりしながら、算数科の良さを感じる。	身に付けた力を確かめ・試す

〈本時〉(8/10)

(1) 目標 全体の量と比が分かっていることに着目し、割合や等しい比の性質の考えを用いることを通して、比例分配の問題を解くことができる。

(2) 展開の様子

- ① 学習課題をつかむ。
- ↓
- ② 個で解決策を考える。
- ↓
- ③ 班で話し合う。
- ↓
- ④ 共通理解と結論を発表する。
- ↓
- ⑤ 全体でまとめていく。

～ 板書 ～
 ・課題とめあて
 ・考え為の材料
 ・線分図
 ・発表版
 ・まとめ

(3) 本テーマに関する所見

- ・「根拠を明らかにして自分なりの考えを発表したり活動したりする学習に取り組む」ことが主体的かつ積極的にできるように、単元学習内で確実に習得すべき知識と技能を指導者が意識しさらに児童の学びへの自己評価も加えながら、目指す子ども像の具現化を図った。
- ・比の表し方や考え方、既習事項である割合の考え方との類似等の理解を均一にすることで班での話し合い・考え合いは根拠をめぐる深まりのある対話へと進化していった。

◎職員研修 小・中連携共通実践事項の取組の報告

学校名(西 紫 原 小)学校

教科(理 科)科

学習指導分科会

記入者(鮎 川 浩 英)

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして自分なりの考えを発表したり活動したりする学習に取り組む」

1 単元 「てこのはたらき」

令和4年10月

<単元目標>

加える力の位置や大きさに着目して、これらの条件とてこの働きとの関係を多面的に調べる活動を通して、てこの規則性についての理解を図り、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

2 単元の指導計画

過程(時)	主な学習活動、★教師の手立て
1	○ 一本の棒を使って重い物を持ち上げる活動を行い、どのようにすれば楽に持ち上げることができるかについて問題を見出す。
2	★ 「学びたい」という気持ちが高まるように前時を振り返りながら提示実験を行い、あえて一人に力ではなかなか持ち上げきれない重いものを持ち上げ、子供の関心を高める。 ○ てこの支点、力点、作用点について知る。 ○ てこを使ってできるだけ小さい力で物を持ち上げるにはどうしたらよいか予想し、調べる方法を考える。
3	○ てこを使っておもりを持ち上げ、手ごたえを調べる。(実験1) ○ 小さい力でおもりを持ち上げることができるのはどのようなときかを考え、まとめる。
4	○ てこを傾ける働きや、てこが水平につり合っている状態について捉える。 ○ 力の大きさは重さで表すことができることを知り、実験用てこを用いててこが水平につり合うときのきまりを調べる方法を考える。
5	○ てこが水平につり合うときにはどのようなきまりがあるのか調べる。(実験2)
6	○ 実験結果を基に、てこが水平につり合うときのきまりについて考え、まとめる。 ★ 実験結果から、てこのきまりについて個人で考えをまとめさせ、その後、小人数グループ(4人以下)で話し合いを行わせることにより、自分の考えを明確にしなが、グループに自分の考えを伝えられるようにさせる
7	○ てんびんについて捉え、上皿てんびんで物の重さを比べたり量ったりする。
8	○ てこを利用した道具は、どのような仕組みになっているのかを調べる。 ★ 実験結果から、てこを使った道具の働きについて個人で考えをまとめさせ、その後、小人数グループ(4人以下)で話し合いを行わせることにより、自分の考えを明確にしなが、グループに自分の考えを伝えられるようにさせる ○ てこの働きにつて、学んだことをまとめる。
<本時>	

3 本時(8/8)

(1) 目 標

- 身の回りにあるてこを利用した道具を使って、どのようにしてこの働きが生かされているのかを捉えることができる。
- てこのはたらきについてまとめることができる。

(2) 展 開

予想される子供の姿
○手だけでは絶対抜けそうにないね。

○てこの働きであれば、支点、力点、作用点があるはずだ。

○他にも、てこの働きを使った道具があるかな。
○てこを使った道具の支点、力点、作用点を見つけてみたい。

○てこと同じで、支点が力点と作用点の間にある道具があるね。
○支点と力点との間に支点がある道具もあるよ。
○力点、支点と作用点の間にある道具は大きな力を小さな力に変えているのかな。

主な学習活動

- 提示実験を見て、どうしてかたいくぎを簡単に抜くことができたのか考える。
- くぎ抜きは、てこの働きを利用したものであること知る。
- めあてを立てる。
てこを利用した道具は、どのような仕組みになっているのだろうか。
- 計画を立てる。
・他に、てこを使った道具があるか考える。
・てこを使った道具の仕組みについて考える。
- 実験を行う。
・身の回りにある、てこを使った道具の支点、力点、作用点の場所を道具を使いながら調べる。
- 考察する。
・見つけた支点、力点、作用点の位置関係について気付いたことを発表する。
- 話し合う。
・てこを使った道具は、支点、力点、作用点の位置関係で3つのグループに分けられることを知る。
・個人で考える。
・小人数グループで考える。
・全体に気付いたことを発表する。
- まとめを行う。
- 教科書の問題を使い、単元のまとめと練習を行う。

具体的な教師の手立て

※①：あえて木に固く釘を打ち、てこの働きを利用し、道具の利便性を働かせることで、実験結果を基に、その仕組みについて感心を持たせる。

○道具を実際に使用させることで、道具の仕組みについて具体的に捉えさせる。

これらの道具は仕組みによってグループ分けできることを知らせる。

※②：個人で考える
※③：小人数グループで考える

○それぞれの点の間に来る点があるような点なのか考えさせる。(ワークシートの活用)

○てこと同じく、力点や作用点のそれぞれの支点からの距離に着目させる。

◎ 授業後の児童の様子や成果・課題

- 提示実験を行うことで、子供の知りたい、学びたいという気持ちが高まった。
- 個人で考えさせた後、4人までの小人数のグループで話し合わせるにより、より明確に積極的に自分の考えを伝えあうことができたが、まだまだ個人差も大きい。

◎職員研修 小・中連携共通実践事項の取組の報告

学校名(西紫原小)学校 教科(外国語)科

学習指導分科会

記入者(赤瀬川 梨恵)

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして、自分なりの考えを発表したり、活動したりする学習に取り組む」

共通実践事項に基づき、2学期に各校の各教科の授業で実践した内容や成果・課題をご記入ください。各校の取組内容や成果を共有し、今後の学習指導に生かしていただけたらと思います。

単元名:Summer Vacations in the World

ねらい:外国語の背景にある文化に対する理解を深める。

主な活動:AEA の先生が住んでいたオーストラリアについて、学校の様子や夏の過ごし方の話を聞き、日本との相違点やつながりに気付く。

○ 聞き取った知っている単語や示されたイラスト・写真をもとにして、先生がどんなことを話していたのかを考え、伝え合う様子が見られた。自分と違う考えをもっている友達に対して、「〇〇って言ってたから、こういうことじゃないかな。」など考えの根拠を明らかにしながら話す姿が見られた。

単元名:We all live on the Earth

ねらい:地球に暮らす生き物について考えるために、それら生き物どうしのつながりなどについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったり、話したりすることができる。

主な活動:鹿児島に住む生き物について調べ、分かったことを AEA の先生や友達に伝える。

○ Let's Chant で“〇〇 eats □□.”の表現に繰り返し慣れ親しんだことで、その表現を参考にして自分の調べたことをどう伝えればよいか考えることができていた。語順を考える際に、慣れ親しんだ表現を、考える根拠としていた。

● 今後、小学校で慣れ親しんだ表現を中学校で文法的に理解していくことで、さらに根拠を明確にして文を読んだり書いたり、自分の考えを説明できるようになってほしい。

☆西紫原小, 向陽小, 西紫原中で実践した内容を共有しますので、取り組んだ内容を具体的にわかりやすくご記入ください。

☆国語科, 社会科, 算数・数学科, 理科, 外国語科の各教科ごとに、実践した内容や成果・課題をご記入ください。

☆お忙しい中申し訳ありませんが、12月28日(水)までに、各校の教頭先生から西紫原中学校教頭へ See-Smile 学校間連絡事項でご提出ください。よろしくお願いいたします。

◎職員研修 小・中連携共通実践事項の取組の報告

学校名(向陽小)学校 教科(国語)科

学習指導分科会

記入者(小吹 由美子)

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして、自分なりの考えを発表したり、活動したりする学習に取り組む」

共通実践事項に基づき、2学期に各校の各教科の授業で実践した内容や成果・課題をご記入ください。各校の取組内容や成果を共有し、今後の学習指導に生かしていただけたらと思います。【成果…○ 課題…●】

授業で実践した内容

交流

- 同じ学年の中で、グループ活動の人数を変えるなど、比較して検討することができた。
- 交流がある時は、ふりかえりもふえた。
- 話し合い活動をするときに、グループ編成を意図して組み込んだが、核になる子が少なく、話し合いが進まないところもあった。→ 話し合いカードを作成する。

ふりかえり

- ワークシートの終わりに枠を付け、わでかいもの短冊カードを黒板にも掲示した。何度も繰り返すことによって身につけていた。
- ふりかえりを書くことによって、学びのつながりが可視化できた。
- わでかいもの「わかった」や「できた」に偏った。→ ふりかえりの視点を指定するとよい。
- ふりかえりを書く意義を見だせていない子もいる。「わかった」のみの記述など。
→ 継続して行い、ふりかえりする習慣を身につけさせていきたい。

資料活用について

辞書活用

新出漢字の学習のときや、毎時間の始まりに行った。

- 3年生は、興味をもって活動した。増える付箋を楽しみに意欲的に取り組めた。
- 学力の差が出ていて、低い子は引けないままになっている。
→ 読書タイムに辞書ゲームを取り入れてはどうか。

新聞活用

週に1,2回、家庭学習で試写、試写と感想等を書かせたり、若い目のよいところを見つけさせたりする活動を行った。

- 学年で掲示し、子どもたちが興味をもって見ていた。
- 筆者の主張、話の中心が分かっていない。
- 活字を読むのに抵抗がある。→ 新聞記事をロイロノートで撮って、朝読書で読み、その後友達と話をする。活字に慣れる活動を取り入れてはどうか。掲示した新聞記事の内容を話題に、話をするとういのではないか。

◎職員研修 小・中連携共通実践事項の取組の報告

学校名(向陽小)学校 教科(社会)科

学習指導分科会

記入者(中馬)

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして、自分なりの考えを発表したり、活動したりする学習に取り組む」

共通実践事項に基づき、2学期に各校の各教科の授業で実践した内容や成果・課題をご記入ください。各校の取組内容や成果を共有し、今後の学習指導に生かしていただけたらと思います。

(実践例)

4年「自然災害からくらしを守る」

《授業内容》「災害が起きたとき、避難するか非難しないか」ということについて、子供たちにそれまでの学習で習得した情報や知識をもとに意見をもたせ、その根拠も明確にさせ、話し合っていく。ペアやグループで対話的な学びを行いながら、様々な視点をもとに、意見を交換した後に、まとめとして「非難するかしないか」再び考えさせ、自分の考えの変容を振り返らせる。

・災害への対策を「マイタイムライン」にまとめ、それを家庭に返し、家庭でも災害が起きた時にどうすればよいか話し合うきっかけにした。

・災害マップ等を活用した。

《具体策》

・地図帳、白地図の活用

・写真資料や文献資料、地図、実物等を活用して理解を深める。

《共通実践事項》

・地図帳及び ICT の活用

・対話活動を取り入れる。

・考えや根拠を自分の言葉でまとめる。

☆西紫原小, 向陽小, 西紫原中で実践した内容を共有しますので, 取り組んだ内容を具体的にわかりやすくご記入ください。

☆国語科, 社会科, 算数・数学科, 理科, 外国語科の各教科ごとに, 実践した内容や成果・課題をご記入ください。

☆お忙しい中申し訳ありませんが, 12月28日(水)までに, 各校の教頭先生から西紫原中学校教頭へ See-Smile 学校間連絡事項でご提出ください。よろしくお願いいたします。

◎職員研修 小・中連携共通実践事項の取組の報告

学校名(向陽小)学校 教科(算数)科

学習指導分科会

記入者(柚木)

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして、自分なりの考えを発表したり、活動したりする学習に取り組む」

共通実践事項に基づき、2学期に各校の各教科の授業で実践した内容や成果・課題をご記入ください。各校の取組内容や成果を共有し、今後の学習指導に生かしていただけたらと思います。

- グループ、ペア等での対話活動の際、意見と理由を区別させて交流を図ってきた。
- 文章→図、図→文章という作業を通して、数学的な思考を促進し、課題の理解や習得を図ってきた。
- できる限り個々の見届けを行い、○つけや、赤ペンでの児童の理解補助を行ってきた。(計算領域を中心に、図形領域に関しても)
- 基礎的事項を身に付けさせるために、定着の時間を確保し、覚えるべきところや身に付けるべきところや身に付けるべき処理作業の方法を丁寧に指導してきた。

《成果と課題》

- ◎ 対話活動の中で、少しでも自分の意見を出そうとする姿勢が見られ始め、お客さん状態の児童が以前より減ってきた。
- ◎ 定着の時間には、「できるぞ」という気持ちで取り組んでいる児童が多くなってきた。
- △ 家庭学習の充実という面で、個別最適な学びを自分で選択できる(選択しようとする)気持ちや力を付ける必要がある。
- △ 文章問題の読み取りが不十分なので、今後とも(国語と連携して)取り組んでいく必要がある。

☆西紫原小、向陽小、西紫原中で実践した内容を共有しますので、取り組んだ内容を具体的にわかりやすくご記入ください。

☆国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語科の各教科ごとに、実践した内容や成果・課題をご記入ください。

☆お忙しい中申し訳ありませんが、12月28日(水)までに、各校の教頭先生から西紫原中学校教頭へ See-Smile 学校間連絡事項でご提出ください。よろしくお願いいたします。

◎職員研修 小・中連携共通実践事項の取組の報告

学校名(向陽小)学校 教科(理)科

学習指導分科会

記入者(小麥崎 健)

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして、自分なりの考えを発表したり、活動したりする学習に取り組む」

共通実践事項に基づき、2学期に各校の各教科の授業で実践した内容や成果・課題をご記入ください。各校の取組内容や成果を共有し、今後の学習指導に生かしていただけたらと思います。

I 問題解決を進めるにあたり、予想を大事にし、見通しを立てさせ、また実験の結果を 基に自分の考えが書いているか、見届けを確実に行った。また、「言語活動の位置付け」と「つまずき」と「手立て」を具体的に明確にして、学力の向上を図った。

II [基本的な学習過程の設定]

(1) 「つかむ」段階…自然の事物・現象を対象にして問題意識を持つ。この段階では、自然の事物や現象を観察し、「なぜだろう」「どうしてかな」「試してみたい」などと問題意識を持ち、学習問題を焦点化する段階である。記憶や経験がどうなっているかを把握しておく。また、それに応じて自然に問題意識が持てるような場作りをする。

(2) 「見通す」段階…学習問題を解決するための方法を予想を基に考える。この段階は、学習問題の予想を基に、問題解決のための方法を考える段階である。

そこで、ここでは、児童の主体的な学習活動を保障すること、予想と観察・実験の方法に一貫性を持たせる。検証計画を立案させる言語活動を位置付ける。

(3) 「調べる」段階…観察・実験などによって、検証する。この段階は、見る・触れる・聞くなどの五感を用いて対象を見直したり、目的に合わせて人為的に整えた条件のもとで起こる事象の変化を観察したりして、客観的な事実や関係を見つけ出す段階である。まずは、実験から分かることを自力解決をさせる。

次に、グループで協力して練り上げの中で、実験・観察の方法や手順、データのまとめ方や表現の仕方などを身に付けさせ、調べていこうという意欲を高める。また、一人一人の理解度を把握し、「つまずき」と「手立て」を明確にして、効果的な指導を進める。さらに、結果を整理し、考察する言語活動を位置付ける。

(4) 「まとめる」段階…結果の吟味・考察を基に概念把握を行う。この段階は、観察・実験等によって得られた資料を基にして、それらの関係付けや意味付けを理論的に考察して結論を得る段階である。

そこで、ここではグループで練り上げ、学級全体で結論が導かれるようにする。科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする言語活動を位置付ける。

(5) 「振り返る」段階…本時を振り返り、新たな問題意識を持つ。ここでは、学習の過程を振り返り、解決できた喜びを味わうとともに、新たな問題意識を持つ段階である。そこで、ここでは、児童に賞賛を与えたり、次時への学習意欲を喚起したりする。

III 授業の実践

第5学年「物のとけ方」

三温糖や片栗粉、色つき食塩を水に入れたときの結果を比べて、物が水に溶けることを考える。ここでは、物の水の溶け方に違いがあることに気付かなければならない。

しかし、水に溶けたことと、物が水と混ざっていることを理解するのが難しい。

(1) 問題(4時/13時間)

「物を水に入れると、どのようになるのだろうか。」

(2) 問題に対して予想すること。

多数の児童が、三温糖や片栗粉、色つき食塩は、色はつくが水に溶けるという考えを書いていた。

(3) 実験結果を自分やグループで考え、まとめこと。

自力解決の場においては、粒の動きに注目し、それぞれの溶け方について、結果から分かったことをワークシートに書くことができていた。

交流の場においては、まずグループで、溶け方に違いがあったことや溶けたつぶは、その後どうなっているのかについて意見交換がなされ、自分たちの考えをホワイトボードに言葉や絵、図にまとめてかくことができていた。

交流の場の全体発表では、ロイロノートを活用し比較することにより、他のグループの新たな気付きや工夫されたまとめから、深い学びをしていくことができた。

IV 成果

- 自力解決や交流の場における自分の考えや、自分たちの考えを結果を基に、理由付けて、またまとめて書けるようになった。思考力・判断力・表現力が高まりつつある。
- 見通す段階での、実験方法については、予想を基に述べられるようになった。
- 児童一人ひとりの「つまずき」を的確に把握し、具体的な「手立て」を講じることにより理解度が高まり楽しく主体的に学ぶ姿勢が見られるようになった。
- 理学的表現として「つぶが見えなくなって液が透き通って見える。これを物が水にとけているという。」などの科学的な表現が習得できつつある。
- ICT教育の推進を図るため、タブレットを活用した。物が水に溶ける様子をカメラや動画に撮り再度その過程の振り返ったり、発表の場で活かしたりできた。また、グループでまとめたホワイトボードをカメラで撮り、全体でロイロノートで比較し、練り上げの場で活用したりすることができ、とても効果的であった。

V 課題

- 学習問題に対する予想は、立てられるが明確な理由まではまだ述べられない。
- 友達の意見を自分の考えに取り入れ、自分の考えを広げていくことを今後も継続していかなければならない。
- 単元を通して、実験の結果や分かったことをノートやワークシート等に、自分の言葉でまとめることはできるようになったが、グラフの読み取りが今一つである。

☆西紫原小, 向陽小, 西紫原中で実践した内容を共有しますので, 取り組んだ内容を具体的にわかりやすくご記入ください。

☆国語科, 社会科, 算数・数学科, 理科, 外国語科の各教科ごとに, 実践した内容や成果・課題をご記入ください。

☆お忙しい中申し訳ありませんが, 12月28日(水)までに, 各校の教頭先生から西紫原中学校教頭へ See-Smile 学校間連絡事項でご提出ください。よろしく願いいたします。

◎職員研修 小・中連携共通実践事項の取組の報告

学校名(向陽小)学校 教科(英語)科

学習指導分科会

記入者(中間 沙也)

☆共通実践事項

「根拠を明らかにして、自分なりの考えを発表したり、活動したりする学習に取り組む」

共通実践事項に基づき、2学期に各校の各教科の授業で実践した内容や成果・課題をご記入ください。各校の取組内容や成果を共有し、今後の学習指導に生かしていただけたらと思います。

・環境問題について「自分たちにできる 3R の取り組み」をタブレットを使って調べ、英文を作り、グループごとに英語で発表を行った。We can reduce/ reuse / recycle ~.の形でモデル文を見せ、自分たちの意見を取り入れながら、それぞれ目的語にあたるものを考えて英文作り、発表することができた。

・单元ごとに個人、グループ、ペアでパフォーマンスチャレンジを行った。食材や生物等についてタブレットや本などで調べ学習をしながら、自身の考えたカレーや、動物の生態の紹介、レストランでのオリジナルメニューなどを発表し、それぞれの児童が自身のアイデアを英語で発表することができた。

・1 学期に比べて、自分の意見をもとに英文を作るスピードが速くなり、進んで英文を声に出す様子も見受けられるようになった。しかし、発表の際に、アイコンタクトをとったり、はきはきした声で話すのがまだ難しい児童も多いため、今後も発表の活動を通して指導を重ねていく必要があると感じる。

☆西紫原小, 向陽小, 西紫原中で実践した内容を共有しますので、取り組んだ内容を具体的にわかりやすくご記入ください。

☆国語科, 社会科, 算数・数学科, 理科, 外国語科の各教科ごとに, 実践した内容や成果・課題をご記入ください。

☆お忙しい中申し訳ありませんが, 12月28日(水)までに, 各校の教頭先生から西紫原中学校教頭へ See-Smile 学校間連絡事項でご提出ください。よろしくお願いいたします。

令和4年度西紫原中学校グループ 学習指導分科会テーマ

「思考力・判断力・表現力を育てるための学習指導の在り方」



共通実践事項「根拠を明らかにして、自分なりの考えを発表したり，活動したりする学習に取り組む」

【西紫原中学校での1年間の取り組み】

【国語科】

1年生 スピーチ学習・・・好きなことをスピーチで紹介する。なぜ好きになったのか，どういうところが好きなのかなど，根拠をもって相手に伝えることを意識させた。スピーチ発表会を実施。
「今に生きる言葉」・・・故事成語を使って体験文を書き，互いの作品を読み合い，感想を交流した。

2年生 メディアを比べよう・・・情報メディアについて，6つの観点に基づいてその特徴について考えさせ，その特徴と言える根拠を具体的な例などを示しながら，説明・発表させた。
月夜の浜辺・・・・・・・・どのように読めば，内容や作者の心情を伝えられるか具体的な読みの工夫を行い，音読し，発表した。

3年生 和歌の学習・・・・・・・・自分の選んだ和歌の良さを，選んだ理由を添えて，意見を交流する時間を設けた。
毎月，今現在の「気になるニュース」を根拠を添えて書き，各学級前の廊下に掲示した。

[成果や課題]

根拠を明らかにしながら自分の考えを発表する場面を設けることによって，行事等の決めごとなどを学級活動とする場面などに生かすことができるようになってきた。

【社会科】

- ・ 歴史的事象の背景や理由を問う発問を意識している。第二次世界大戦後の単元終了後にレポートの課題を出し、「第二次世界大戦後の発生に大きな影響を与えた原因や仕組みは何か。またそれはなぜか。」という課題を出した。
- ・ 自由権の具体例を、ロイロノートの思考ツール「Yチャート」を使って分類した。
- ・ 時代の画期（転換点）に立って、前後の比較をするようにしている。
- ・ 指導案の中に問いの構図をつくり、問いと思考の論理（枠組み）を丁寧に考えて指導に生かしたい。
- ・ 単元の課題「中世の時代と比べて江戸時代はなぜ安定した社会が長く続いたのでしょうか。友だちに分かりやすく伝える文章を書いてください。」を設定して、毎時間のまとめを単元の課題とつなげて考え説明する活動を積み重ねて、単元のまとめでレポート課題に取り組んだ。
- ・ 県立新総合体育館構想を素材に、候補地を、経済効果、住民の健康、景観との調和の3つの視点から分類することで、社会資本の機能を捉えられるようにした。またそれを根拠に立地に求められる条件を考えロイロノートで説明する活動を行った。
- ・ 社会保障の充実と税の負担の関係について、財政の役割や国の歳入、将来の人口予測のグラフなど複数の資料をもとに自分の考えを選択し、その理由を説明した。
- ・ 北海道に見られる標識の工夫について、気候を比較させてロイロノートに入力させた。
- ・ Web問題を使って、永久凍土に建つ建物の構造上の工夫を考えさせた。
- ・ 授業の中で、歴史的事象の背景や理由を問うように心がけた。

[成果や課題]

- ・ 単元計画の段階で、発表活動を組み込み、各時間の内容を関連付ける必要がある。
- ・ 社会科の場合は、根拠となる資料が必要である。

【数学科】

- ・ 図形（全学年）・・・角度を求める時にその理由まで発表させる。証明の問題において、自分の考えを友達に伝える。
- ・ 1年生の計算・・・正負の数の四則計算において、符号の決まりを考えさせ、発表させる。
- ・ 2，3年生では、証明問題に取り組み、ペアやグループで根拠を示したり、自分の考えを伝えたりする内容の授業を展開した。
- ・ テストに根拠を明らかにし、自分なりの考えを記述する問題を出題した。

[成果や課題]

- ・ テストにおいては、個人差が大きく、粘り強く解けない生徒が見られた。
- ・ ペア・グループ活動では、個人差が大きく、全く理解できていない生徒がいた。

【理科】

- ・「なぜ?」「どうして?」を大切にした発問を心がけた。
- ・学習課題に対するまとめを自分の言葉で行い、発表したり、隣の友達と意見を交換したりする機会をつくった。
- ・発表意欲を高めるような工夫をした。(発表ポイントカードなど)
- ・実験レポートの作成
- ・ポイントカードを取り入れ、発表を促した。
- ・自分の考えをまとめ、書く活動を行った。
- ・ペア学習を取り入れ、隣の人に説明する機会をなるべく作るようにした。

[成果や課題]

- ・自分の考えをまとめることができるようになったが、みんなの前で発表することには抵抗がある。
- ・実験レポートの作成
- ・グループ活動で自分の意見を発表したり、班の意見をまとめたりすることができた。

【英語科】

・どの学年でも、季節や食べ物など、自分の好みを伝えたり、賛成・反対など自分の考えを述べたりするときに、その理由を説明しながら、まとまりのある英文を書かせるような活動を取り入れることができた。表現力に課題があるので、さまざまなトピックで英文を書かせることで、同じような表現に繰り返し触れる機会をもたせたい。

1年生

自分の好きなことや、好きな有名人、あこがれの人について、まとまりのある文章を書き、その内容について尋ねたり説明したりする活動を行った。

2年生

・Unit Activity「どれに乗る?」では、目的地までの行き方(交通手段)と、それを選んだ理由を英文で表現することができた。

・Stage Activity ” Research and Presentation” では、グループで調べたいトピックを決めて、クラスでアンケートを行い、その調査をもとに、結果をまとめた英文を書いた。ロイロノートを使ってアンケートを行ったり、そのアンケート結果を示したグラフを用いてプレゼンを行ったりすることができた。身近な話題をテーマに根拠を示しながら話し、その内容をお互いに評価する活動まで行った。

3年生

・Stage Activity「係活動報告」や「日本文化紹介」などにおいて、詳しい情報を加えたり、理由を述べたりしながら、まとまりのある英文を書かせることができた。また、タブレットの録画機能を使い、スピーチをさせ、クラス全体で共有することができた。

【英語科】

〔成果や課題〕

- ・どの学年も自分が興味のあることや身近なことについて考えをまとめ、発表する活動を行った。意欲的に必要な情報を調べたり、英文を書いたりすることができた。
- ・タブレットを使い、Google 翻訳使うことも可能になった。本当に伝えたい内容を表現するための手助けにはなるが、既習事項を使って自分の力で書く練習にはならない。

【音楽科】

- ・表現活動・・・合唱コンクールの曲練習を通して、音楽の構造や歌詞の内容を関連づけて、表現の工夫に取り組んだ。
- ・鑑賞・・・音楽の要素、作曲者の思いや曲が生まれた背景などに注目させて、鑑賞の感想・意見を書かせた。
- ・創作・・・自分が創りたいイメージを明記させ、創作をさせた。

〔成果や課題〕

- ・表現の工夫をする際に、くり返し音楽の構造や歌詞の内容を関連づけることを意識させたため、生徒たちにも少しずつ定着してきた。
- ・「自分なりの考え」を思考することが苦手な生徒が多い。また、教師が音楽のイメージを伝えるが、理解できない生徒も多いので、教師側でもわかりやすい言葉を選んでいきたい。

【保健体育科】

- ・個人やグループの活動にて、それぞれの課題を見つけ、振り返り活動においてまとめさせる。それを基に課題解決を図る手立てや計画を仲間と話し合う場面を設定した。

〔成果や課題〕

- (成果) 子どもたちの主体的・対話的な深い学びのきっかけになった。
- (課題) 体力向上の観点から、運動量の不足や体力低下が否めない。

【技術・家庭科】

(技術分野) 課題を解決するための順序立てたワークシートの活用

(家庭分野) 裁縫における作品づくりでは、実生活での活用をつくり始める段階で明らかにしておく。

[成果や課題]

(技術分野) なぜそのような考えに至ったのか評価しやすくなった。自分の振り返りに使える。

(家庭分野) 現在、製作の途中であるので、各工程で細かく実践例を示すことで、実生活への活用を印象づけていきたい。

【美術科】

・ 1年

[校内風景スケッチ]

場所へのこだわりなど、その構図を選んだ理由を明確にさせながら、制作を進めた。

[絵文字とデザイン]

その漢字をなぜ選んだかを明確にして、制作の柱とし、完成後の鑑賞会では、感想を交えて学級内で発表した。

・ 2年

[室内画スケッチ]

場所へのこだわりなど、その構図を選んだ理由を明確にさせながら、制作を進めた。

[デザイン・まるごとブックデザイン]

自分なりのコンセプトを構築し、オリジナルの書籍を(表紙・裏表紙のみ)制作した。完成後のプレゼン会では、制作の根拠とともに「どこが魅力か」を自分たちなりに工夫してアピールした。

・ 3年

[空間構成]

4つの図法を学習し、それぞれの特性を理解させた上で、1つ選び、独自の世界を構築させ作品に仕上げた。

[篆刻]

3cm×3cmの枠内に「自分らしさ」をテーマに名前印をデザインし、石材に彫った。「友達の色紙に押す」こと「卒業記念」であることを意識し、制作させた。

[成果や課題]

生徒一人一人が、モチベーションを高めながら制作に取り組めるには、教師側が「なぜ今この単元なのか」「なぜこの作業が必要なのか」をきちんと説明・理解させて進めることが大事だと考える。ただ、5クラス全部に同じように伝えていくためには、提示資料の工夫が必要だと考えている。